

花の渡り鳥 (1956)

メディア 映画

ジャンル 時代劇 サスペンス

製作国 日本

色彩 B&W

時間 80分

初公開日 1956/01/03

【解説】

川口松太郎の原作を「いろは囃子」の犬塚稔が脚色し「銭形平次捕物控 どくろ駕籠」の田坂勝彦が監督した股旅もの。大映を代表する三人のスター（長谷川一夫、市川雷蔵、勝新太郎）が初めて顔を合わせた。

旅鴉の榛名の清太郎は、崖の下で瀕死の重傷を負った鹿島の七兵衛から、娘おみねへの伝言を頼まれる。途中で出会った女道中師のおぎんは清太郎に一目惚れ、相棒の蝸の半次とともに彼の後を追いつつ始めた。おみねは土地の親分である岩井屋音吉につきまとわれ、父の子分である櫓の惣吉とともに逃げているところを、清太郎に助けられる。しかし逃げ場を失ったおみねと惣吉は利根川での心中を決意、かつて清太郎の弟分だった蔦屋の佐吉に救われるのだった。

【クレジット】

監督 田坂勝彦

製作 酒井箴

企画 浅井昭三郎

原作 川口松太郎

脚本 犬塚稔

撮影 牧田行正

美術 上里義三

音楽 渡辺浦人

出演 長谷川一夫 榛名の清太郎

市川雷蔵 佐吉

勝新太郎 蝸の半次

木暮実千代 見返りのおぎん

清水谷薫 おしの

阿井美千子 おみね

夏目俊二

柳永二郎

香川良介

寺島貢

天野一郎

水原浩一